838
297
116

共四 其三

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』 請求記号 838-116

ガラス使用

三太田 清和源氏 本三河
又 牛上野 本摂津
又 同姓 本三川
又 〃 本尾張
又 〃 本甲斐
又 〃 〃
又 清和源氏 本上野

太田彦右衛門政重男
政近 太田道九郎
生旅二州
永禄年中参仕於
大神君天正二年七月長篠役戦死

清政 太田彦右衛門
実高木道太郎清方男
生旅二州
天正十九年辛卯賜四百石後奉仕
台徳公慶長十二年丁未為十大御番水野備後守組
元和五年己未八月致

太田 本国三河 従九位下

清和源氏
太田

本國三河 後先拾校

太田彦右衛門 政重男
政近 太田甚九郎
生於三州
永禄年中孝仕於
大神君天正三年乙亥十二月長篠役戦死

清政 太田彦右衛門
實高木甚太郎清方男
生於三州
天正十九年辛卯賜四百貫後孝仕
元和元年乙未為大御番水野備後守組
元和五年己未八月卒

根岸 鎗氏寄贈
昭和八年 帝國圖書館

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

助重　太田次郎右衛門

生於江州

慶長十三年戊申部屋住為大御番水野備後守組同十五年庚戌賜二百俵
元和元年乙卯婚於松平甲斐守組寛永九年壬申為松平豊前守組
駿府御番同十一年甲戌相番一同賜易十之領人
慶安四年辛卯御免同年十二月廿五日卒知行高百廿石
為小普請後入大御番組寛文八年戊申八十六歳於小路町極岸院
葬事向書

妻

太田勘九郎　半四郎

宣重　次郎

生於江

四月七日元寿極岸院
子白書如事

元和九年癸亥六組新規為小十人組寛永九年賜御物金子十枚
同十年癸酉五七為同組頭加百俵
万治二年己亥五九為御具足奉行
寛文六年丙午十二月九日卒於小路町極岸院年六十五
子見譽道學居

重弘　太田帝兵衛
女

慶長九年辰生於奥州伏見
寛永九年壬申九月廿一日新規為中十人小栗幸吉組賜月俸吉
同十二年乙亥加百俵合賜百俵十人扶持同廿年癸未八月
新恩壱安曲五拾俵合賜三百五十俵
慶安四年辛卯十四為讃岐守御使等賜三百俵後患病辞職寄隠
致仕于帝又延宝八年庚申九月九日卒于七十七葬于谷威光山法明寺
号林月院日仙

致仕帝八

重則　太田八左衛門
女

重　太田　帝兵衛
女

生於江戸
神田伊勢御屋敷御小姓組後父家督三百俵延宝四年
徳松君附大和守重矩卒後剃髪寄隠
貞享二年五月二日為相州御代官同年二十九為大御番頭川
下野守組同年六月九日大坂在番同三年四月九日帰府同十三
在番中御改同五年戊辰三月七日帰府元禄二年己巳五十四歳
同二年庚午五月四日卒于谷威光山法明寺
号清心院日侃

室
女

妻小宮山傳三郎宣明女

万治二年己亥五月六日卒法明寺
于谷山光幻

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

生於尸
文禄二年辛巳八月廿八日依旨
為重秀
子

正德二年壬辰六十五歲于五反
享保十九年甲寅二九三
于清淨院土反日巖

重秀　太田八左衛門　市兵衛
　母

生於尸
寶永元甲申五四六初室住為大和
正德二年辰六十五家相三百俵于伊勢守
賴母紅四年十二十五為寄平岩七郎組
寛保二年辰十廿九卒

葬法明寺

女子　母同

文禄二年癸巳生
于高月妙詠

于觀成院殿宗悟日德室

女子　母同

太田伊兵衛
享保十九年甲寅十二月廿五日卒
于陽生院妙修日臻大姉

壽

某　太田重五郎

妻家女　生曆二年辛亥八月廿九日卒
于圓昌院妙長日住

太田主殿頭
清久

宝暦五年乙亥六月九日卒
于住院妙圓

女子　母家女

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

清久 太田市次郎 市兵衛

室 斎藤折井仁左衛門次女

生歿記
寛保三年癸亥十二月六日三百俵於菊門御先手弓組被仰付
寛政十年戊午閏四月廿九日病死
宝暦十二年壬午十二月為大御番山岸備前守組被仰付
安永七年戊戌十二月病死為中奥御番頭被仰付

女子 母折井仁左衛門次女

明和三年丙戌生
寛政六年甲寅二月廿九日法明寺
弓矢町にて死

女子 揖斐秀五郎

女子 某

清房 太田與兵衛

室

室

生歿記
寛政□年
為中奥御小姓被仰付
文政二年卯十一月病死

太田
女

生於[illegible]
文政二年[illegible]十一月廿日卒
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

重堅　太田助十郎
女

生於[illegible]
明和元年乙未二月八日
寛文十年庚戌七月廿日卒
享年元年甲子十月六日
元禄十二年己卯十二月廿六日
同十四年辛巳二月九日卒
号修證院殿
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

正寛　太田道灌
女

妻羽太傳九衛門
女
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

延宝六年戊午生 於江戸
元禄十二年己卯十二五家督四百十俵 計禄 於黄門御供
引出物御紋付脇差 為大御番頭式 初而御目見
同十五年壬午 五十 為大御番組頭
宝暦四年甲戌 病気 致仕
寛文真院殿 御附 逝去

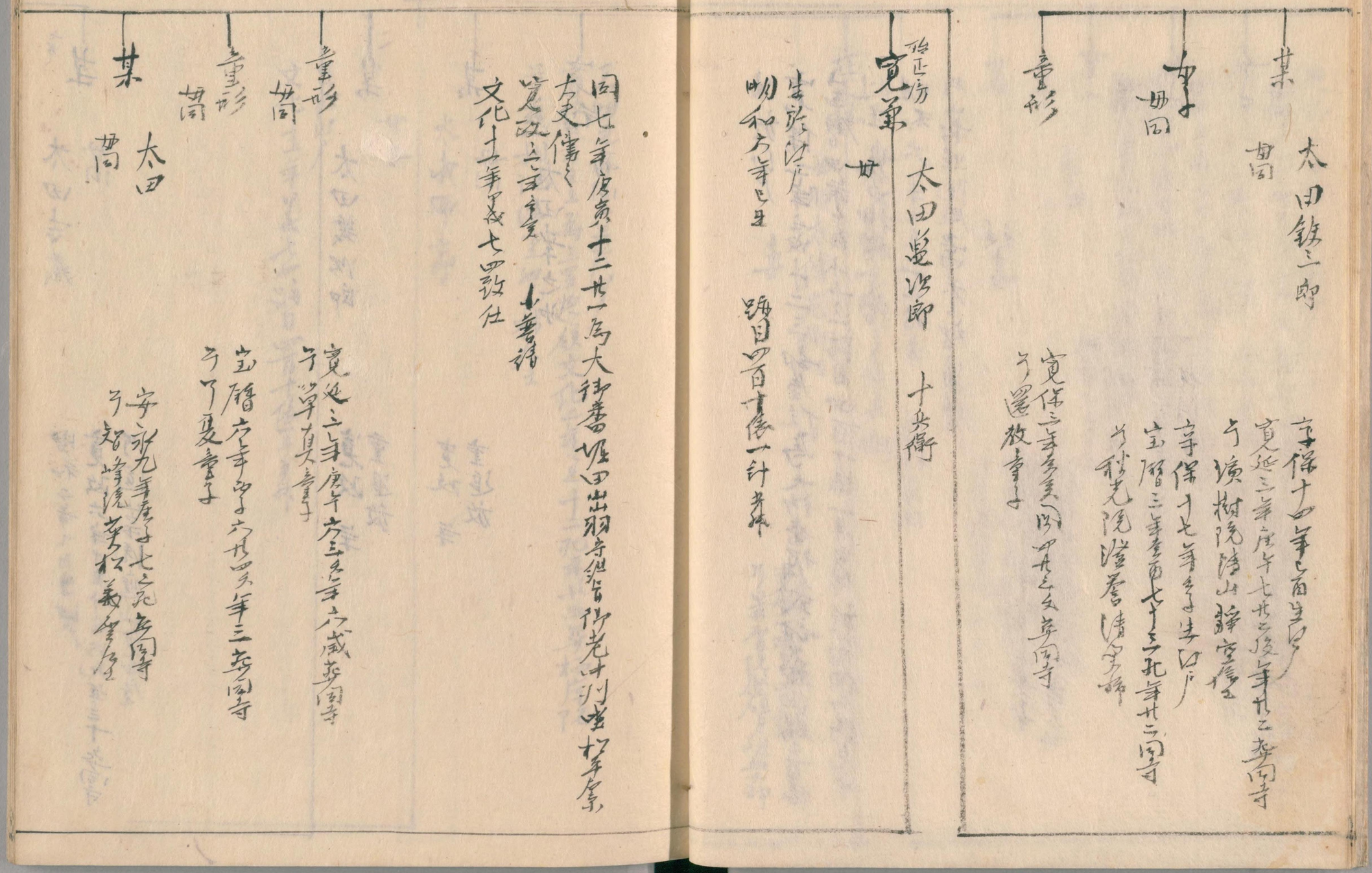
某
太田
某

太田陸一郎 彦兵衛
正木林
妻
妻 明和六年己丑二月廿日 寛延二年己巳四十九
法名 祐吟 寿 于 増上寺 墓所 同断

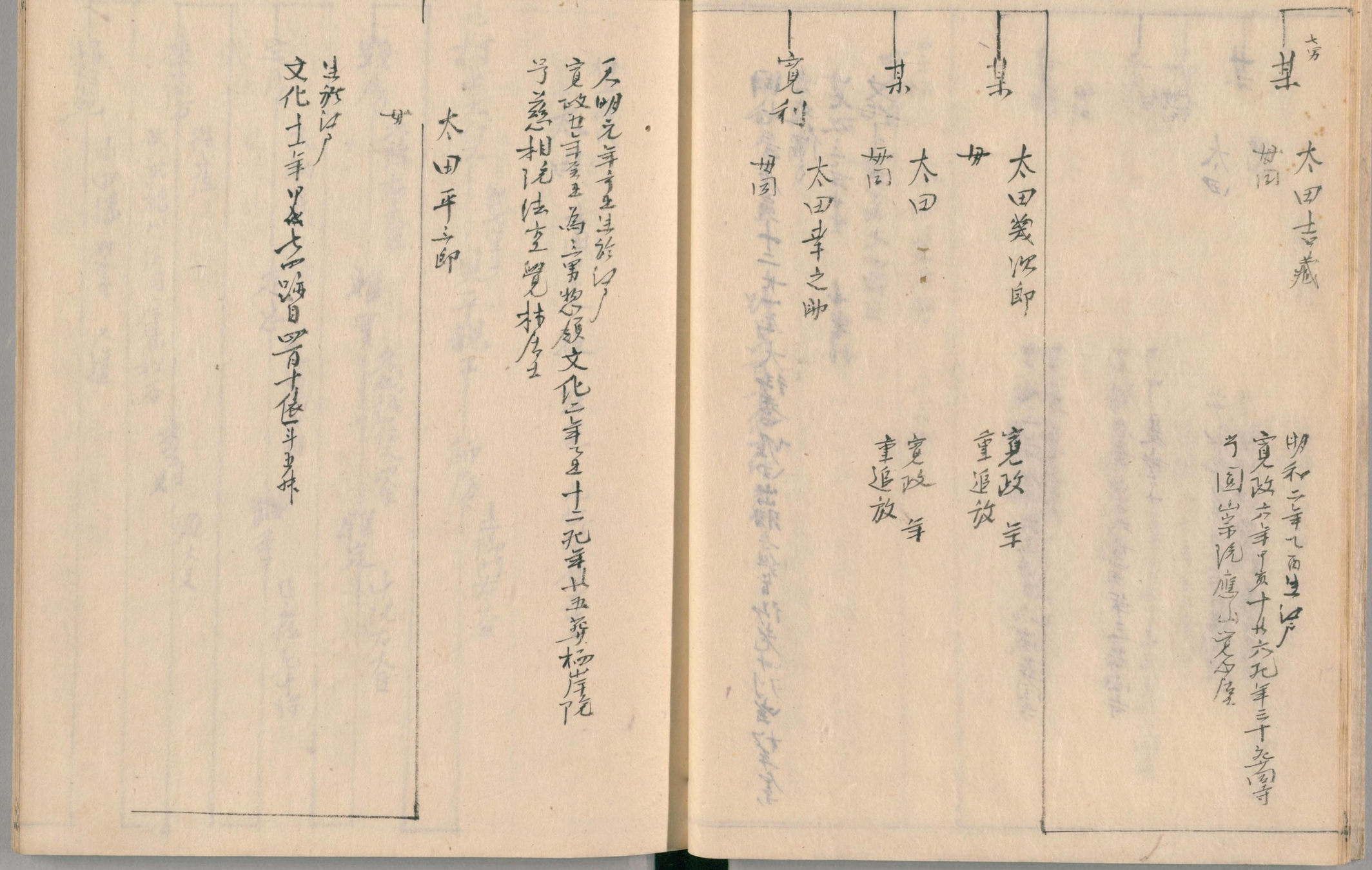
妻 寛保二年壬戌十二三 御屋住 為大御番頭式 初而御目見 二百俵
宝暦四年甲戌十二三 隠居 四百十俵 一斗五升 於黄門御供 老中
引出物 時服 羽織 袴 被下
法名 梅岸院

妻 明和八年辛卯八十九 元文四年己未七十九 死去
法名 祐吟 寿 于 増上寺 墓所 同断
正徳元年辛卯 生 於江戸
于 林清寺 墓所 元文四年己未七十九 死去
法名 梅岸院殿端誉智生大姉

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

村上源氏

太田 書圖甲斐又 敘 左三史 九枚笹 崔文字

村上天皇 第七皇子 具平親王 師房 土御門右大臣

顯房 藤右大臣

雅實 名義仁従大臣

定房 大納言

定忠 左近衛少將

師季 正五位左中將

季房 式部権大輔播州佑 従五位上赤松右京亮

季則 源大夫

頼範 山田掃部守 大道

赤松太郎　宇野播磨權守
則景　家範　赤松左衛門尉
仕類朝卿
為助
義作太郎二郎
頼景
生於播州
將則　宇野新太夫
為頼
景忠
太田太郎
光頼
信濃播州太田住
景盛　肖次郎
有景　柳田八郎
光親　太田太郎左衛門
生於播州
居於播州太田庄
光範　太田治太郎　宮内左衛門
生於播州
赤松太郎義範書
女子
女子
光秋　太田小太郎
光英　太田又太郎
光行　太田又六郎

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

重光　太田孫二郎　藏人
生於播州

重今　太田助八郎
生於播州
爲赤松次郎則村入道圓心
元弘二年攻落高田丹庫助城寺爲先登
力戰爲得首級天同三年閏二十二播州
摩耶城合戰軍氏矛軍功
同五年二月廿四日於播州戰而死七ヶ

爲嫡孫
政利　太田左近將監
廣　生播州

完成　太田宮内丞
生於播州

爲嫡孫　太田八郎

昌光　太田勘解由左衛門
居甲州仕武田信昌信縄信光

重昌　太田宮内少輔
仕於武田信光天文八年正月仕信玄於甲州臣摩郎初賜采地
信州合戰從行右銃得首級數次得旌歌所見
廿四歳而没于煥亮院忠山常孝

女子　平林源右衛門尉
女子　青木尾張守　妻

明應四年下向關東下向之早速國仕武田信昌
六十六歳而歿法名常松

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

昌安　太田助助　佐渡守
　廿山寺氏
　生於甲州
　仕信玄父遺跡甲州巨摩郡六十貫内所置得八貫九百文九百石
　九百石戸石軍有軍功加秩十貫文九百貫文
　仍治二年為信濃軍大軍功賜感状及加秩二十貫合百貫九百貫
　永禄四年辛酉信州川中島役合戦死
　子景覺院宝泽源房

女子
　嗣

　今井伊勢守清光　壽
　　天正二年甲戌七月廿九
　　于休字善昌祥尼

信昌　太田宮内　始助昌
　廿河野豊前守

妻生奥兵部左衛門昌綱女

生於甲州
天正十年壬午勝頼亡後旅陸州濱松而仕
大神君同十二年甲申長久手役従行同十九年辛丑三於上総州賜
四十貫　御手印奥州岩手澤移住傳寿文禄二年癸酉肥前於
名護屋慶長五年庚子信州真田昌幸籠城
同六年辛丑二月廿七日

安正　太田又右衛門
　廿牛奥兵部左衛門昌綱
　元和二年丙辰為御書賜二百俵寛永十年癸酉無加二百石合
　賜四百石
　同十八年辛巳　九

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

貞正　太田藤右衛門
寛永廿庚申年重正男

某　太田牛兵衛
住越後仕上總介忠輝卿後滅人

吉重　太田圖書　助左衛門
母同
寛永十二年乙亥七月五日死葬長龍寺
妙泉禅定尼

寿加賀美次郎右衛門正成女
永禄九年丙寅生於甲州
天正十年壬午父同孝仕於
大神君同十七年己丑年長久手役父同戰死
慶長五年庚子隨於
台徳公住州真田表伏誓同六年辛丑為
又隨伏誅真田表伏誓同六年辛丑為
寛永二年乙丑二月二日卒年五十二
御事

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

神代村七右衛門
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

寛永六年巳十二月廿四没年六十四葬于本名高賀山長龍寺
法名梅岑浄寒居士

女子

河野勝九衛門通秀室

吉秀　太田勘藏　七右衛門

加賀美次郎左衛門忠助女仙

妻梶川四郎次郎忠慶長十年寅生

慶長十二年寅子生年三年乙丑七十七歳寛永十年酉十月廿日長龍寺

文禄二年癸丑生於上總州佐瀬

元和二年丙辰為大炊御門家孝行

寛永四年為大炊御門家孝行

同十五年戊寅五月八日没年四十五歳法名孤雲了徳居士

吉久　太田勘九郎　勘右衛門

勘同

慶長十年寅生於上總州

元和九年癸亥新規為小十人組賜采俸百俵寛永九年壬申如百俵
合賜二百俵 同十三年丙子三月廿三日卒法名長誌寺
宗心安全書禅定門

吉正 ┬ 太田也之助 ┬ 也兵衛 ┬ 女子
　　 ┴ 女子　　 ┴ 無嗣 ┴ 無嗣

寛永九年壬申生於江戸 同十三年丙子賜二百俵 正保四年丁亥為小人頭 慶安元年戊子三月廿三日卒 長誌寺
明暦元年乙未 四月於湯島天神前中坂大隅家才永井源兵衛尚
為代 死七年二十四年号改 寛文三年癸卯三月廿三日卒 長誌寺
于真法了天居士

吉清 ┬ 太田三次郎 ┬ 九右衛門 ┬ 女子
　　 ┴ 婿　　　 ┴ 無嗣　　 ┴ 無嗣
　　 ┴ 女子 ┬ 山岡傳右衛門 ┬ 女子
　　 ┴ 無嗣 ┴ 無嗣　　　 ┴ 無嗣

寛永元年新規為大御番内藤右兵衛賜二百俵同十年庚酉二七
並加増為寄合賜四百石 同十二年乙亥四月廿七日卒 法名
同十七年庚辰八月廿三日卒 法名竹林 竹川町人之祖父 竹林
与法山右行正

吉武 ┬ 太田三次郎 ┬ 長七郎 ┬ 女子
　　 ┴ 女子　　 ┴ 無嗣 ┴ 無嗣
　　 ┴ 女子 ┬ 山岡傳右衛門 ┬ 女子
　　 ┴ 無嗣 ┴ 無嗣　　　 ┴ 無嗣

寛永七年庚午生 元禄十年丁丑卒

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』 請求記号 838-116
ガラス使用

寛永十七年庚辰十一月九日無官加階此刻北大納言上納賜之刷
南新田邑二百石
正保元年甲申六為大御番内藤石見守度寛元年癸亥十四為新御番
駒井右京亮加判十俵為二百五万治元年戊戌八月四日水道
習五年壬寅九月為寄合
天和元年辛酉五十四寄合養龍奇
于御簾院宮妻父屋

男 時
男
女

柳澤長門守吉里卿侍従
寛文二年壬寅十一月廿日

男 竹
母家女

寛文二年壬寅十二月八日卒高井
戸心願寺

女 石
母同

男 母同

始者義春
喜寛 太田長十郎
母家女

妻 大河内備後守久恒女

寛文四年辰二月六日生於江戸
天和二年戌七月廿日二百五十石内五俵為中奥詰被官仰付
貞享四年丁卯二十三為大小姓組番入
元禄五年壬申七月病気為寄合同九年丙子五月六
日為大番之支配被仰付同十九年丙戌九月四日病死為寄合井戸
対馬守組正徳五年乙未七月廿二日仕

乃至享保十五年九月廿日程奇
り心影寺女

子 保元年卯三十八歳年六十
号春城院殿宝覚良諦居士

吉光 太田二次郎
母同

室増 太田與右衛門
母同

女子 以称
母同

女子

女子
母家女

嘉業 太田長太郎 後兵衛
母太田庄兵衛資重女錦
文禄十二年癸卯二月八日年九十
号正了院

女子
母家女

佐吉盛直時
宝秀 太田五郎助 左大夫
母同

延寶二年甲寅年卒
元禄八年乙亥六月為出家
註海法師同十五年壬午十二月年二十九歳還國寺与註海大徳

女子

女子
母家女

太田與右衛門
母同

寛文五年乙巳出羽生
母年二七年乙巳六七月年廿一歳中為
還國寺与堂養蓮心居士

寛文六年丙午十九生
母年二七年乙巳十一月乙為同姓樂名門
嫁養子

物右衛門 寛文七年丁未生
母年二七年乙巳二月年廿八歳還國寺
号涼月浦空信女

寛文十年庚戌生
同十二年壬子五月六日年卅三歳還國寺
号露夕童子

元禄九年甲子六十四始徙
於筍町而御老中望桜子
享保三年戊二十六為大
新御書杉浦弥一郎組同
中橋向新材木近藤半
寛延三年庚午八為御
宝暦十二年壬午十一
子端午院殿祥林観月
太田次郎作
愛安 母同
可敬 太田與兵衛 母同
元禄五年壬申三生
正徳元年辛卯二
真言宗新明色
宝永六年己丑十六
同性與右衛門宜長
義益 太田庄五郎 母同
賀晴 母同 太田万吉 市作
宝永元年甲申六十九生
享保十六年辛亥二
元禄十一年戊寅九四生
同十二年己卯七
子秋幼童子
権七郎 文五郎
某 太田七兵衛
実御曷見多田藤兵衛頼長
実母西尾長兵衛
享保五年庚子十二月生
同十七年壬子七九五
実延四年辛未正十九

某　太田兵七郎
母豪子

女子　養子吉次郎
寛永元年生
寛長尾快馬子祐元女

女子　リク
母豪女
寛保七年乙亥生於江戸
明和六年己丑孝仕
考恭君為表使往利尻寛政
元年知墨尾啓泰安延壽院
子

女子　ノブ
母豪女
元文元年丙辰九生於江戸

寿
寛保十七年丁巳十二十三生於江戸
同十八年戊午五二十三夭
長壽寺
弘雨院童子

寛保四年甲戌九月徴擢
万石御君御小姓同十年庚辰十一月六日
卒長龍寺
法號清雲院殿松嶺泰和
大居士

始喜須
嘉言　太田八十八
母同

寿
鍛冶書本所九八郎長泰女
天明元年辛丑二月廿六日

寛保二年壬戌七七生於江戸
宝暦八年戊寅三十八始御目見明和元年甲申八月跡目二百五十石内寛
於勤向御徒中列座杉年閑仍寺傳ニ為中書石川阿波守應之女永八年辛卯十二月廿四日大御番
本所割川町御手御徒町大谷木帯刀邸四百坪相對替拝領依病寺
傳ク
文化七年庚午　死年六十九

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

義啓　太田伊織　母秀女

安永二辛巳十二十四馬
太田伊織忠勝養子

太田隅五郎

嘉香　實ハ中村内匠頭一門建照二男
實母林氏養母野田隼人右衛門娘

生於江戸
寛政二年庚戌年八歳養子同七年乙卯十二月九日歿

孝胤　太田友三郎　嘉右衛門

實ハ中村内匠頭一門
實母鳥居小九郎次通女
妻養父嘉香女

安永四年乙未正月二生於江戸
寛政八年丙辰六月九日養養子安藤對馬守傳ニ同九年丁巳年八依
學問出精御褒美拝領仰付奥御書傳ニ同年九月廿日始御目見
文化七年庚午八月廿四日二百五十石御加増
二百石ハ御役高無ニ而御加増

孝子　母秀女　養子孝胤妻

天明二寅年九月生

女子　琴　女子　抑　順　女子　業　嘉會

女子　母同　母同　母同　母同　母同　母同　母同

母同　姓嘉字女　太田道之助　太田剛次郎

天明七年丁未二月廿五生

寛政元年己酉　花生

寛政十年戊午二月廿日生於江戸
同十二年庚申九月廿九日夭壽長龍寺
于梅芳勾花童子

寛政十二年庚申閏四月廿五日生同廿九日夭
葬于池畏童子

和二年癸丑十二月廿五於江戸

女子　多々　母梶川四郎次郎忠勝女　徒御番　菅沼忠左衛門定常妻

寛永二年丙寅生於江戸
貞享二年乙丑四月廿五日
保善寺

太田小兵衛　七左衛門

寛永五年戊辰生於江戸
同十七年庚辰十二月廿一日二百俵為小普請
移為大御番内藤角兵衛組
明暦二年丙申正月廿九大火時持衛逃退
當堂賜金二枚延宝五年丁巳十二月廿五日致仕
与輪番院殿法誉照山宗居士
寛文十二年壬子正月廿九日卒于池上
長龍寺

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

某

某

宜長　太田五助兵衛

女子　母同　平夜月圓稽屋生

妻　御廣敷本多九右衛門玄安女

寛永十二年乙亥十二廿八生

慶安四年辛卯十六徽撰於靜

同五年辰十二十九賜百五十俵宛

二百廿俵同十年酉四九八為

為小書院番組頭寄合元年子八二月為

元禄元年戊辰五廿為甲府御先手頭同年十二月六日於

同年十六日於甲府孔子廟前死年五十四辛卯神寺

元禄十五年壬午廿三長龍寺

号長岸玄松大姉

與右衛門

櫻田御留守居

太田平十郎資武

延宝七年未廿八父子兩人

平十郎資恒

妻

於義丸

至壇　太田又次郎

寛文六年丙午十九生母同年十二月朔日

貞享元年甲子九十二為智養子同年十二月廿日

元禄二年己巳十二廿二師旨三百俵内俸養子賜二百俵

同五年壬申十二廿二為小普請

宝永元年甲申十二月二十二為寄合

妻　養父宜長女

寛文六年丙午十九生母同年十二月朔日

貞享元年甲子九十二為智養子同年十二月廿日

元禄二年己巳十二廿二師旨三百俵内俸養子賜二百俵

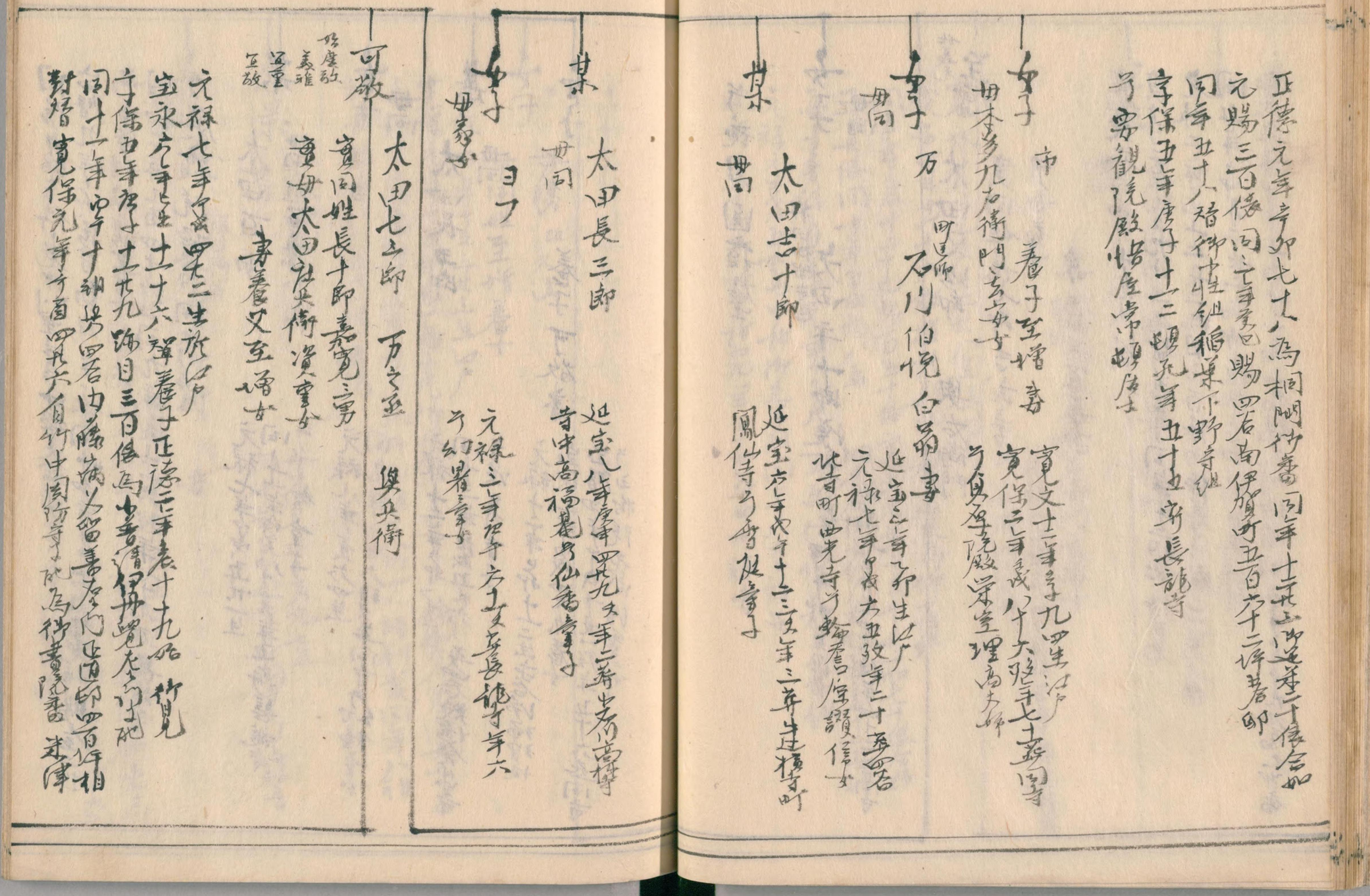
同五年壬申十二廿二為小普請

宝永元年甲申十二月二十二為寄合

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

正徳元年辛卯七十八為相州秋番同二年十月二十五日逝年二十依合如
元賜三百俵同六年丙申賜四百石南保賀町五百六十二坪居邸
同年五十八箱御中性仙稲葉下野守縁
享保五年庚子十一月二日卒元等五十五所長龍寺
号安観院殿悟空常順居士



国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

同所右衛門佐中納言従三位中務大輔傳
宝暦九年七月廿四日卒 六十五 法名緑賜金二枚
為中興諸祖菩提所 法名如一
明和二年乙酉四十致仕同九年壬辰
与庭籍院禅尼同齊名

某 太田百助
母 妻長谷
女子 キヨ

某 太田長五郎
母 妻
女子 七歳 養子 可敬孝

元禄七年甲戌五月一日
同十二年己卯十二月五日 長龍寺
了了智童子

元禄八年乙亥六月生
同九年丙子六月廿六日 同寺ニ刀鐘童子

元禄十二年己卯十月生
同十三年庚辰五月六日 母同寺
与保秀童子

元禄十二年己卯十二月生 実母同断
宝永三年丙戌四月九日 同寺
宝暦四年甲戌十月一日 年五十六 同寺
与五郎院花岡清事之弟

女子 万須 改久満
母同 妻長谷
寺保六年丑十二月二日生 母同断
寛保元年辛酉九月一日 宝永三年丙戌四月九日 同寺
為衍中髣主 同十二年壬申 業衍
於長龍寺剃髪 勝善院

悪景 太田與十郎
母同 妻

女子 養 (義兵衛男)
母同 太田吉次郎
寺保十七年丙申二月廿日生 母同断
同十六年辛未十月廿四日 同姓儀兵衛嘉高
養子 寛延二年巳 移養家 同三年庚午亮
年若干 生寺号老院妙岡日性

十又保七年壬寅九月生
同十年癸丑六月二日 母同寺ニ而誕生

至真　太田七藏
　妻
　女

守儀十二年丁未九月八生於江戸
明和二年乙酉四十歳相三百俵於御小納戸
為中奥番組頭兼帯元御門支配同五年戊子三月廿四日
自願院天覚浄真居士

茂正　太田大膳　依十郎　與右衛門　改往法山
　妻　與津久左衛門忠親女
　　飯高市右衛門忠親女　離縁

延享二年乙丑三月生於江戸
明和五年戊子三月廿三日相三百俵於御小納戸
為中奥番組頭兼帯元御門　同九年壬辰四月十五日病辞
文化四年丁卯七月九日改仕同年九月剃髪号法山

女子　歿以
　妻　宝暦四年甲戌生
　女　小林万吉
　　妻

正集　小林万吉
　妻

英茂　太田十郎
　妻
生於江戸

明和二年乙酉生江戸
天明五年乙巳十四歳小林仙次郎正方
婿養子

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

文化元年閏二十六日於吹上御庭而拜領
二百駄之、同四年丁卯七月九日御加増三百俵、為十書院之列

忠卿　太田古兵衛　平十郎　勘右衛門　小左衛門

實須田次郎太郎祖寛宗
實須田傳左衛門盛重

妻養父吉里養女　女
継妻同人　女

寛治元年丁亥十二月八日生於江戸
延宝四年丙辰為嗣養子同五年丁巳
同九年辛酉二月九日大御番酒井大和守殿元禄元年戊辰為桐間御番
同四年辛未　従兄為中善請同
正徳五年乙未十二月除存命下総
古田邸龍松禅寺ヶ谷住居而致病死
法名道居士

女子　ノブ　養子忠卿妻
田安家仙臺
池人田中勝兵衛　女

天和二年壬戌十二月廿五日致病死長龍寺
于醫官院拜領之仮屋

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

女子 母同 養子忠卿後妻

集 太田平十郎 又

女子 者 又

忠豊 太田友之助 平人卿 母同姓士忠長子

延寶八年庚申二月二十三日卒

初誰諧盡不應又心頓也子有

女子 名 母同 里遐權太郎 号南雪

忠勝 太田伊織 母同

妻岡田利左衛門女

元祿八年乙亥八月十四日生江戶

正德五年乙未六月廿六日二百五十俸

傳ゝ為小普請享保廿年乙卯十九為大御番頭

若狹守従四位下行攝津守享保十八年癸丑八月十六日卒

女子 母忠卿子 御右筆 首藤又右衛門後妻 生一男子嫡妻子又男早卒

母同 大谷求安 右近右筆 元祿七年甲戌五月生

享保十六年辛亥五月二日卒

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

十兵衛長勝公之卿子配寛延二年庚午四月為大行事水野肥前守組
宝暦九年己卯十二月五日勤賜金二枚明和二年乙酉二十六才老病力
賜金二枚為十兵衛子孫式部大明元年辛丑八月改任
到五年己巳年七月二日卒九十二歳 長壽寺

子 幸子 ㊀ 小川右平太 寿元禄十二年己卯生
昌道 始三吉進豊 太田豊五郎 元禄十三年庚辰生
母同生勝 元禄十五年壬午生
某 太田某内 母同
某 矢田松馬新十郎 母同

宝永四年丁亥二十二生
正徳五年乙未為矢田平十郎妻
満智 始幸子 母同岡田理左衛門妻
某 太田元次郎 母同
昌豊 始昌道 太田豊五郎 勘助 重寿

宝暦七年丁丑四十五生
安永九年庚子八十枝年 法名心屋
宝暦十年庚辰四十五生
文化十四年丁丑生
早世
宝暦七年丁丑四十五生
文政十年丁亥九十三歳 長龍寺
帰幻院仙嶺英苟大姉
宝暦十年庚辰四十五生
安政二年乙卯六十四歳 長龍寺

義路 太田捨之助 孫兵衛 伊織
實同 儀兵衛 嘉書 二男
重母 妾女

安永二年癸巳十二月廿四日為養子
天明元年辛丑公祖父家督二百五十俵被蒙仰候
御傳奏 為十善寺住同四年甲辰九月六日於濱御
大納言 覺同五年乙巳十二月六日
同七年丁未七月十六日為布野馬一匹
寛政元酉年三箱新御番組同二年庚戌十月九日
御上洛御供

原

源姓

太田　書二河　紋九曜　指扱

政常　太田三右衛門

正晴　太田八郎右衛門　生母ハ

嚴有公薨代御納戸二百俵

天和元年辛酉　跡

正　太田伊九衛門　生母ハ

部屋住馬乗之組

天和元年辛酉十二月廿日二百俵

役料加増

宝永五年戊子八月致仕

太田喜八郎

生没

宝永五年癸子八六歳智二百俵於菊間御縁側老中列座五度拝領

傳く爲也無嗣

太田政之進

女

宝永二年酉年出生

幸作

幸作

幸作

源姓

太田

本國尾張

政左也

太田權之右衛門

狀定

自先祖仕於織田家正德六年事 御年九歲
特賜元服近習番賜二百俵寺侍十三年轉
寺侍公用十納ノ二元文二年巳十月二日疫毒病逝
于菩提所淨山一孝居士

快久

太田外記

母

生於織
元文二年巳十二 隨二百俵於菊間御縁中列坐松平左近將監傳之

為土佐
寛信二年正月八日為出雲組打手筑後
宝暦六年四月九日六十九年　野勘笔清林寺
于菩明院殿頭蒼白光生物名

快政　太田権之亜権之衛門
女

生於江戸
宝暦六年甲子四月二日依於筑前御
為当藩太田善蔵寺之祀
同　年　藩中組秘書大和金
同七年丁丑十二月為中小納言同十年庚寅
同十一年辛卯四月　日　仍免為当家
天明二年壬寅十二月廿四日致仕　称中野
嫡十郎

快周　太田八十吉　権之右衛門
女

生於江戸
天明三年癸卯十一月廿四日　家督二百俵旅前
為土佐守
寛政　年　為宿老御側御用人列座大和守
上座

女
女

美令

安永二年巳年三面久菩提
于增善院到岸寺宝筏暁

源姓

太田　書画甲斐　紹鷗父

太田宗休

時徳　太田小右衛門

寛永十年子生　細田掃部男

神田行殿跡百二千俵　延宝八年庚申死去

太田作大丈

生口ノ

神田行殿跡百二千俵　延宝八年庚申死去

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116　　ガラス使用

文化元年子六八九

友　太田亮之助
　　女

生江戸
文化元年子九月晦日百五十俵
為十善信

君信濃守

清和源姓
太田　本国上野　故九郎為資　拾捉

太田戸右衛門古武男

政德　太田作兵衛
　生於上野国
元禄八年乙亥五代新規為　拝領御殿御破損之節御修復之
宝永二年乙酉二月七日移　御本丸為中書錺番行之旨同四年亥三月
為吟上御花畑御殿御座敷方手伝勤御庭御用同七年戌寅十二月九
日迄十俵ニ而為勤大和守傳ニ而　正德元年卯十二月為御講金百疋
為也大和守傳之為　御相木方世話役享保二年酉五月為御役人目付
大名傳化渡寺以書傳ニ而　出仕ニ而同年十一月二日病給　相免化渡寺
傳ニ而為中書錺内藤越前守組
元文二年巳十二月廿五日

政武　太田作兵衛　子蜂元
　　實池右彦四郎　二男

正徳五年乙未二十九為婿養子母方又継家名
享保二年酉五月自新金任為御小性役人同十一年午十二月
村杉彦四郎傳く同十二年丙午二月廿三日内藤紀前守傳く
元文三年戊午二月廿日村手伊豆守傳く
寛保三年亥六月為吹上御庭掌頭役被仰付同年冬
宝暦十三年癸未十二月十八為西丸表火番被仰付同年冬
乃賜銀十枚為十五人扶持永井筑前守傳く同七年丁酉十一月廿九日
天明二年壬寅六月廿

妻　養子政武妻
　貴田野喜兵衛　女

政邦　太田新八郎　作兵衛
　　母杜政徳養女

妻　近藤隼人田中藤左衛門　子良永養子
　　室大熨　甲利左門　女

生於江戸
安永七年戊戌八月九日二十俵五人扶持於御納戸而被召出
傳く為中奥番永井筑前守傳く同八年戊申十八為文祿
天明元年辛丑二月九為表火番同年冬為御庭掌頭役
同四年甲辰閏正月十二為　種姫君御居初御侍同七年丁未十二就御用
為御小納戸　茂姫君御廣敷御用人支配御侍同八年戊申十八為文祿
勤定同年十二月廿日評定所留役助勤被仰付同年冬寛政二年庚戌二十一為留役
同十二年庚申四九為御勘定被仰付同年冬西丸御普請
掛御手當金被下置同十三年辛酉二伊豆守傳く御用人被仰付
為御持筒頭　文化　年

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

文化十一年戌　　死

女子　古屋伴藏　室樂　妻

曲淵　又市

曲淵　甚左衛門

女子　木田十右衛門　改　財樂

女　田中藤左衛門惟孝　妻

御書院番料　古田休甫　女

女子

女子　曲淵　甚左衛門

寛政五年丑五月九六部屋住為御勘定勝百五俵　百俵小笠原

同十年戊午二月九和前御用向自分名前ニ而被　召出候

同年四月御暇同年十一月十五日病死　法名

御暇同年十二月廿日同十三年寅正月廿七日

文化十一年戌七月跡目二十俵五人扶持

838
297
116

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用